

1 はじめに

本校は、現在、児童20名以下の小規模校となっているが、かつては100名を超える児童が在籍していたため、普通教室が6つあった。そこで、現在普通教室として使用していない3つの空き教室を、複式学級の学習指導や児童の話し合いの場として活用し、学習活動を円滑に進めたり、児童相互の日常的な交流の場を増やしたりしている。

2 実践例

(1) 学習の場として活用

ア 音読・発表練習・教材視聴

複式学級の授業において音や映像を扱うと、他方の学年の集中力を妨げたり、他方の学年への遠慮から思い切った活動ができなかったりすることがある。そこで、音読・発表練習・教材の視聴等に、隣接する空き教室を活用している。教師は廊下で両学年の状況を確認しながら指導を行っている。



イ 1・2年生の図書室・全校朝読書

1・2年教室に隣接する空き教室に1・2年生用の図書と子ども新聞を設置している。1・2年生は図書の貸し出しを学級担任が行っているため本が借りやすく、気軽に読書に親しむことができる。また、月・水・金は、読書意欲の向上をねらいとして、ここで全校朝読書を行っている。さらに、全校朝読書の時間を利用して中・高学年は、子ども新聞を読み、自分が選んだ記事についての感想を全校児童の前で発表する活動も行っている。



(2) 交流・話し合いの場として活用

ア 全校朝の会

月・水・金は朝読書の後、全校朝の会を行っている。司会を全学年が輪番で実施し、多人数の前で堂々と発言する力を育てている。

イ 全校話し合い活動

毎月一回全校での話し合い活動を実施している。その月の生活目標を決めたり、学校生活における様々な課題について話し合ったりしている。人前で発表する機会を増やすとともに、自分たちでよりよい学校にしていこうとする意欲を高めている。



ウ ランチルームでの全校給食

配膳室の隣の空き教室をランチルームとして活用している。1・2年生が机と配膳台拭き、3年生～6年生が運搬と配膳を担当するなど、全員で準備や片付けを行っている。また、座席も異学年同士を組み合わせるなどして児童相互の交流を促している。

